

研究のためカルテの情報を使用させて頂いています

◎対象となる患者さん：肝細胞癌に対して経皮的ラジオ波焼灼術を 受けられた方

1、研究の題名 『IVR-CT 室で行う肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術の有用性の検討』

研究期間： 倫理委員会承認後 ～ 2026 年 12 月 31 日

2、研究の目的

肝癌は比較的死亡率が高く、国立がん研究センターがん対策情報センターの 2020 年度の癌死亡予測でも年間約 2 万 5000 人が肝癌で死亡しているとされ、癌全体の中でも 5 番目に多い癌となっています。根治的治療を目指すのであれば、まずは手術が第一選択枝に考えられますが、高齢、肝機能低下や基礎疾患など患者様の状態によっては、手術が受けられない場合もあります。

経皮的ラジオ波焼灼術は、超音波で観察しながら、皮膚を通して電極針を腫瘍の中心に挿入し、ラジオ波という電流を通電させ、針の周囲に熱を発生させ、腫瘍を焼灼する方法で、手術が不適応となった患者さんに行う内科的根治療法のひとつです。この治療法は手術に比べ、患者さんへの負担は少ないですが、肥満体型など患者さんの状態によっては超音波だけでは観察不良となり、十分な治療ができなかったり、合併症を起こしてしまう可能性もあります。

当科では 2015 年 11 月より経皮的ラジオ波焼灼術を IVR-CT 室という適宜 CT 撮影が行える治療室で施行し、電極針を穿刺後必ず CT 撮影により針先端位置の確認と焼灼範囲の確認を行っています。この手法により確実な腫瘍の焼灼が可能となり、出血などの合併症も早期に発見できるようになりました。

本研究では、過去に肝細胞癌に対して経皮的ラジオ波焼灼術を受けられた患者さんで、IVR-CT 室を使用した方と使用しなかった方で、癌の再発率を比較し、IVR-CT 室で行う肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術の有用性を評価し、肝癌治療を受けられる患者さんの診療に役立てることを目標としています。

3、以下の期間に上記（◎対象となる患者さん）を満たした方が対象です

対象期間： 2013 年 1 月 1 日 ～ 2026 年 12 月 31 日

4、本研究で使用する情報について

本研究に関して 診療記録 から 以下の情報を取得します。

年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報（生活歴、既往歴、現病歴）、血液検査データ、画像検査データ（腹部超音波画像、CT 画像、MRI 画像）、肝癌再発までの日数

5、取得情報の利用範囲

飯塚病院 で使用します。

6、本研究の責任者

この研究の責任者は以下の者です。研究の成果を学会や論文等で発表する際には名前等を番号や記号に置き換え個人が特定できない様に行います。また、この研究にあたり個人情報の漏洩等がないよう取得した情報等を管理し、患者さんに不利益がない様責任を持ちます。

(科名又は部署名) 肝臓内科 部長
(研究責任者名) 本村 健太

7、対象となる患者さんまたはそのご家族等の方へ

この研究にあなたの情報が使用されることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。お申し出頂いても、不利益を被ることは一切ございません。どうぞ、ご安心ください。

また、この研究の計画書を研究に支障のない範囲で閲覧することができます。その場合も下記連絡先までご連絡下さい。

(連絡先) 0948-22-3800 (代表)
(担当者名) 肝臓内科 田中 紘介